

# 生活科部門

総評

低学年ならではのほろほろしい作品から、低学年とは思えないポリウレームのある大作まで、幅広い作品が集まりました。例年通り植物や昆虫などの観察も多いが、マンホールや地元にある石碑など、地域のものに目をつけた作品も目立ちました。

家族の支援があったりしてはじめて子どもと自由研究は続けられるものではありますが、子ども自身の考えや描写、記述をできる限り大切にしていきたいので、お父さん、お母さんの関与をいかに減らせるかもポイントです。生活科は身近な事象に気づき深める教科ではありますが、自由研究はその枠にとらわれない例えは外国や偉人の行いの研究など身近でない事象にも関心を抱き、追求していく姿も期待したいと思っています。

## 賞 文部科学大臣奨励賞

わたしの町をたんけんしよう

愛知県 長久手町立西小学校 2年

吉村 優那

東京から愛知県長久手町に引っ越してきた優那さんが、東京のお友達に長久手町の素敵なところを伝えたいと思い、長久手町を探索してまとめた作品です。「町たんけん」は、愛着ある人や場所を増やして情緒の安定をはかる大切な役割があり、この作品でも優那さんが町を知ることを通して自己を安定化していく様子がよくわかります。前回の小学校との比較表、交番やパン屋さんでの人とのかわり、リモンの研究などを大きな横造紙に地図とともにまとめている姿も、自分が住む町への自覚につながり、有益な学びになっています。お父さんお母さんにアドバイスをもらいながらまとめたこの作品は、とても見やすく資料のまとめ方、地図への表現、写真の使い方に、インテリジェントな学習技能も学べたのではないのでしょうか。ほぼ一貫した家族の様子も伝わってきます。

横造紙2枚分の大きな「わたしの町」マップ!



事前の準備から最後までとても丁寧です。

## 賞 子どもの文化・教育研究所 理事長賞

こま

東京都 白百合学園小学校 1年

安藤 円樺

全18ページに及ぶ大作で、一年生がここまで実験を継続できたことに驚きます。こまの形の違いや軸のつけ方、こまの材質など多くのバリエーションにつき美に丁寧に回転実験を行い、作ったこまの数は合計182種類にものぼりました。実験は、とても簡単に気が短いと上手いきません。同じように回さないと、正しいことが調べられないと言ったお母さんの言葉に、いつも熱心に取り組んだ円樺さんの忍耐強さは素晴らしいものがあります。3分近くも回るこまを完成できた喜びを忘れず、今後科学への興味を持ち続けて下さい。



それぞれの実験に写真と表として実験からわかったことがまとめられています。

## 賞 全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会会長賞

水のけんきゅう

東京都 白百合学園小学校 2年

筒井 はるか

今年の猛暑から「毎日どのくらいの水をのんでいるのだろう。そしてどのくらい体から出しているのだろう。」という疑問を抱き、水について研究するのにはたはるかさ。実際にダムに行つてダムの動きを知り、また浄水場では水をきれいにする方法などを学びました。体に入った水、出た水の実験では、その日に飲んだ量とトイレに出た量を毎日ばかりではかきとて大変な努力をしました。水の量とあわせてその日の気温や歩いた歩数なども調べ、わかりやすくまとめた。貴重な資源である水を知り、今までも出しっぱなしにしていた水も大切に使うと自分の生活の中に研究の結果を反映できた点も素晴らしい作品でした。



わかりやすい表やグラフ。字もとてもきれいです。

## 賞 中央出版株式会社 社長賞

がんばったカタツムリとほく

神奈川県 茅ヶ崎市立香川小学校 2年

中崎 玄

カタツムリについて、「どのくらいのはばをわたれるかな?」「色んなはばでどう歩く?」「どんなわたりかたをするのかな?」などとてもユニークな実験を行いました。実験の様子は、写真と文章でわかりやすくまとめています。ガムテープの裏を粘着力など何もないようにするようにつくって、割りと割りの間隔が広くなると流れなくなつてもえさを置くと渡るなど、興味深い結果を導き出しています。今後、結果で疑問に思ったことについて、もう一歩踏み込んで疑問を解決していって、さらに研究が深まるといいですね。



ガムテープの粘着力を調べる実験の様子

## 賞 優秀賞

いいおとみつけん

岐阜県 関市立香川小学校 1年

江口 七海

おいしいわがしと日本のけしについて  
セミツてどんな虫?  
東京都 白百合学園小学校 2年  
武井 若葉  
東京都 白百合学園小学校 2年  
長谷川 晶子